

ご参加にあたってのお願い

-  参加者様名は、苗字のみに変更をお願いします。
-  ご所属（会社名等）名の記載はお控えください。
-  マイクはミュート（OFF）でご参加ください
※発言時のみミュートを解除してください。
-  カメラはオフでご参加ください。
-  ご質問は質疑応答時にチャットか挙手をお願いします。
-  録音・録画・画面撮影・SNS等への投稿はご遠慮ください。

人材育成奨学計画（JDS） 業務説明会

JICA無償資金協力部業務第四課
2026年8月18日

1. 人材育成奨学計画（JDS）
2. 実施代理機関（エージェント）の役割と主要業務
3. 協力準備調査（9/2公示予定）
4. 質疑応答

1. 人材育成奨学計画 (JDS)

1. 事業目的

- 対象国において将来指導者層となることが期待される優秀な**若手行政官**等を日本の大学院に留学生として受け入れ、帰国後は、社会・経済開発計画の立案・実施において、留学中に得た専門知識を有する**人材として活躍**すること、またひいては**日本の良き理解者として両国友好関係の基盤の拡大と強化**に貢献すること。

2. 事業の特徴

- 無償資金協力による留学生受入事業
- 先方政府・日本側で運営委員会を組織してプロジェクト実施方針を検討する。先方政府は実施代理機関（エージェント）と契約を結び、**エージェントが留学生の募集選考～受入、帰国までに至る一連の手続き業務を行う。**

JDSの特徴①

●事業の流れ

-協力準備調査により、1フェーズ分（3～4期分）の受入分野、受入人数、募集対象機関、受入大学等の全体計画を先方政府と合意する。

-毎期ごとに日本政府閣議請議の上、E/N、G/A締結をもって実施が確定する。

E/N：交換公文（Exchange of Notes）

G/A：贈与契約（Grant Agreement）

	学位	調査	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
協力準備調査	-									
第1期	修士		★	募集選考	来日	帰国				
	博士			募集選考	来日		帰国			
第2期	修士			★	募集選考	来日	帰国			
	博士				募集選考	来日		帰国		
第3期	修士				★	募集選考	来日	帰国		
	博士					募集選考	来日		帰国	
第4期	修士					★	募集選考	来日	帰国	
	博士						募集選考	来日		帰国

1フェーズ

【運営委員会による事業運営】

●運営委員会（OC: Operating Committee）構成

被援助国政府関係者（外交当局、経済協力受入当局、公務員人事当局、文部当局等）
及び日本側関係者（在外公館、JICA在外事務所等）で構成

●主な役割

- ア. 協力準備調査における本事業計画策定協議への参加
- イ. 留学生最終候補者の決定
- ウ. 就学期間の変更(就学の中止、延長等)
- エ. 帰国留学生の有効活用の促進およびフォローアップ
- オ. その他本事業の運営管理に関する検討

●事務局：実施代理機関（エージェント）

JDSの特徴③

※ JICA留学生（技術協力や有償資金協力による留学生）とのすみ分けの観点から、JDSは中央省庁におけるリーダーを目指すキャリア官僚（特に事務官）を対象とすることが望ましい。

- 受入課程：主に修士課程
（博士課程については真に必要性がある場合）
- 主な応募資格及び要件：
 - ア．国籍：被援助国の国籍を有する者。
 - イ．年齢：原則として来日年度4月1日現在で22歳以上40歳未満の者。
 - ウ．軍籍者の排除：軍に現に奉職していない者。
 - エ．本事業の目的を正しく理解し、学業の修了・帰国後、母国の発展に貢献する明確な意思を有する者。
- 候補者選考：JDS独自の選考プロセス（OCと大学による選考）

2. 実施代理機関（エージェント）の役割と 主要業務

実施代理機関の役割

本事業を円滑に実施するために、E / N 及び G / A 締結後、協力準備調査の受注者を JICA が被援助国に対して実施代理機関として推薦する。実施代理機関は被援助国政府と実施代理業務契約を締結して、以下の業務を行う。

- ア. 留学生候補者の募集、選考手続き補助
- イ. 留学生候補者への留学情報の提供
- ウ. 留学生の来日・入学時に必要な手続き
- エ. 学費、奨学金等の資金管理
- オ. 来日準備支援・来日後オリエンテーション及び、来日前後の各種研修実施
- カ. 留学生の滞日中モニタリング（学業面、生活面）
- キ. 帰国プログラムの実施（帰国支援、評価会、帰国後報告会）
- ク. 元JDS留学生に対するフォローアップセミナーの開催
- ケ. その他本事業を実施するために必要な業務 など

※本調査コンサルタントは、JICAの推薦を受けて本体事業の実施代理機関も引き続き担当することになります。本体事業の業務を含めて協力準備調査への応募を検討ください

実施代理機関としての業務期間

原則として、協力準備調査にて計画合意した1フェーズ（3期～4期）の実施を担当する。
 ※毎期ごとに閣議請議により事業可否を決定することから、**事業期間（業務期間）や事業規模が変更になる可能性がある。**

【標準的な業務期間】

	学位	調査	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
協力準備調査	-									
第1期	修士 博士		★ 募集選考	来日	帰国					
第2期	修士 博士			★ 募集選考	来日	帰国				
第3期	修士 博士				★ 募集選考	来日	帰国			
第4期	修士 博士					★ 募集選考	来日	帰国		

★ : O/D・閣議・E/N・G/A ● : 募集選考 ▲ : 留学生来日 ▼ : 留学生帰国

年間スケジュール（標準的な例）

	国内	現地
4月		
5月		
6月		E/N、G/A
7月		実施代理機関契約
8月		運営委員会により募集方針決定
9月		募集開始
10月		応募締切
11月		英語・数学テスト
12月		1次選考（書類選考）
1月	モニタリング	2次選考（専門面接）
2月	修了前研修・行政官交流会	3次選考（総合面接）
3月	大学への出願・学費支払い	運営委員会による承認
4月	モニタリング	
5月		
6月		
7月	モニタリング	来日前オリエンテーション
8月	来日前、来日後オリエンテーション	
9月	国別交流会、入学	
10月	モニタリング	
11月	行政官交流会	
12月	次バッチ概略設計	

【主な活動】

①募集選考

②生活サポート

③機会提供

④事業費概算

⑤資金管理

主要業務①募集選考

1. 事務局対応：募集選考に係る各国運営委員会運営、
募集選考全体の運営と工程管理

2. 募集活動：

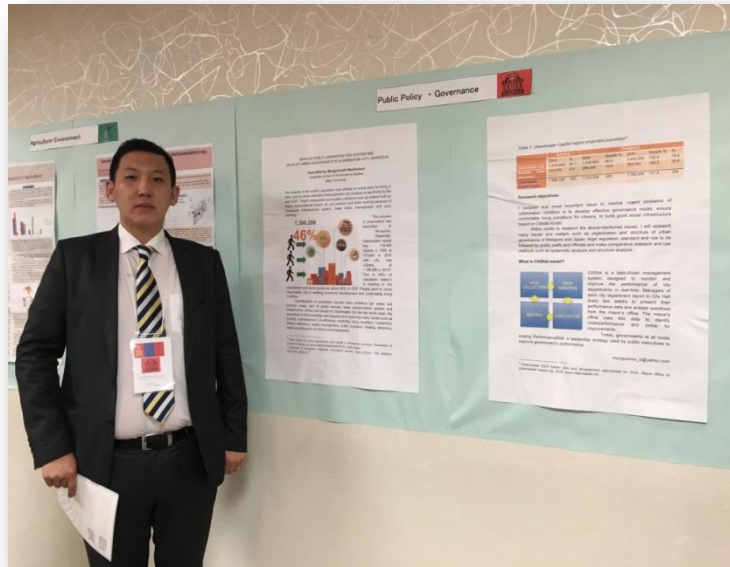
- ✓ ターゲット層に効果的かつ効率的にアプローチする募集活動の検討
- ✓ 将来のリーダーとなり、上位の政策策定への関与、二国間関係に影響を与える優秀な人材の発掘とリクルーティング、募集説明会等の実施

3. 選考サポート：

- ✓ 大学・運営委員会による選考サポート
- ✓ 公平性・透明性、ジェンダー平等等に配慮した募集選考の推進

主要業務②生活サポート

- 留学生の学業および生活面でのモニタリング・サポート
- 問題の早期発見・早期対処→JICA、OC等への報告と対応
- 優秀な人材の把握、帰国後の関係拡充→帰国後追跡



主な生活サポート業務の例

日々のコミュニケーション

留学生トラブル

- 傷病
- 事件・事故
- ハラスメント
- 禁止事項違反
- 成績不振
- 人間関係（大学を含む）
- 家族関連
- 災害時

など

大学のサポート例

- 留学生センター
- 日本語講座
- チューター
- 図書館
- 学生寮
- 保健センター
- インターン
- ホストファミリープログラム
- アカデミックライティング
- ムスリムお祈り部屋
- 地域交流会
- ハラルフード など

主要業務③機会提供

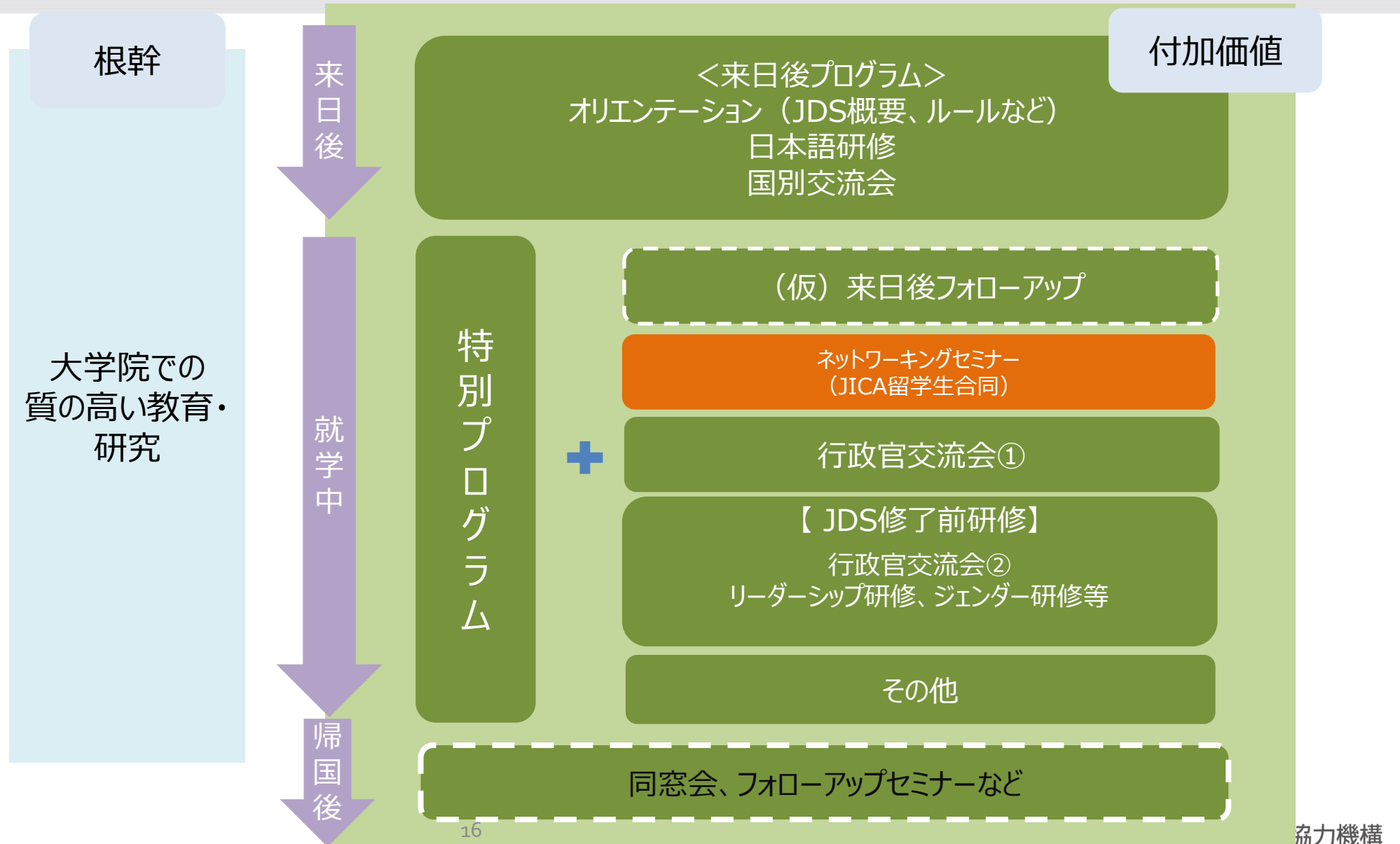
＜JICAならではの留学生事業とは＞

学位取得だけが目的ではない、JICA留学生としての付加価値提供

- ・ リーダーとなる知日派若手行政官の育成・・・研修機会の提供
- ・ 人的ネットワーク強化・・・本邦行政官との継続的な関係構築の場の提供



大学による価値+JDS事業での付加価値（例）



主要業務④事業費積算

- 協力準備調査中に全4期分（または3期）の受入計画を策定。第1期の概略設計を実施。
- 第2期以降の経費概算は、前年度実績を踏まえて実施代理機関が提出。JICAはこれを審査する。

	学位	調査	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
協力準備調査	-									
第1期	修士 博士	★	募集選考	来日	帰国					
第2期	修士 博士		★	募集選考	来日	帰国				
第3期	修士 博士			★	募集選考	来日	帰国			
第4期	修士 博士				★	募集選考	来日	帰国		

★ : O/D・閣議・E/N・G/A ● : 募集選考 ▲ : 留学生来日 ▼ : 留学生帰国

- **先方政府への遅滞のない請求（支払スケジュール管理）**
- 大学への入学金、授業料等の支払い
- 留学生への奨学金支払い
- 関連する活動への支出および精算
- 特別プログラムの契約と精算

3. 協力準備調査①

(調査概要)

9/2 公示予定

【1.調査の流れ】

- JICAによる大学公募（大学要望調査）
- 調査 ※現地調査 1 回＋国内調査を想定。
現地調査において想定される先方政府との合意事項は以下のとおり
 - ・JDS実施に向け運営委員会の体制、留学生受入全体人数
 - ・JDS分野課題、JDS 受入大学
 - ・事業計画概要及び重点分野ごとの基本計画案の作成、先方への説明/合意
- 現地調査報告書作成
- 第1期概略設計（事業費積算）
- 最終報告書作成

【2.主な調査内容】

※詳しくは公示資料および報告書記載項目（案）を参照

- 1. 各国人材育成事業におけるJDSの位置づけの整理**
- 2. キャリアパスに係る調査および有望人材確保に向けた検討**
- 3. 他のJICA案件との関係性の整理、連携可能性の検討**
- 4. 帰国生のJDS留学後の事業効果発現状況調査・分析**
- 5. ジェンダーの視点に立った調査および取り組みの検討**

公費の効率的・効果的な活用

- ・国費、他のJICA留学事業との棲み分け、およびJDS事業趣旨・目的を踏まえてターゲット層を整理する。
- ・合理化できる業務、削減可能な経費を整理し、事業費の縮減に心がける

戦略的な事業運営

- ・ターゲット層への効果的・効率的なリクルート方法を検討する。
- ・地域のメリットを意識した事業設計を検討する。

3. 協力準備調査②

(各国 分野課題・人数 (案))

1. 受入人数：全体15名（修士14名、博士1名程度/期）

JDS援助重点分野 (サブプログラム)	開発課題 (コンポーネント)
1.健全なマクロ経済の運営とガバナンス強化	1-1 公共財政の規律強化と金融システムの育成
	1-2 ガバナンスの強化
2.環境と調和した均衡ある経済成長の実現	2-1 国内産業の強化と輸出製品の多様化
	2-2 持続可能なエネルギー開発・政策

2. モンゴル国独自の留意事項

- 現地調査：1回、11月下旬から12月中旬を予定
- 20年以上の受入実績を持つ成熟案件である
- 事業成果を分析、その結果を踏まえた新フェーズに向けた提案を期待
- モンゴルの政策決定構造とキャリアパス分析を踏まえた戦略的な人材のターゲティング提案を期待

中央アジア地域（広域）：キルギス国

1. 受入人数：全体20名（修士19名、博士1名程度/期）

JDS援助重点分野 (サブプログラム)	開発課題 (コンポーネント)
1.持続的開発のための政策立案能力の強化	1-1 公共政策
2.持続的経済成長のための政策立案能力の強化	2-1 経済政策/ビジネス振興政策

2. キルギス国独自の留意事項

- 現地調査：1回、11月中旬～12月上旬を予定
- 事業成果を分析、その結果を踏まえた新フェーズに向けた提案を期待
- キルギスの政策決定構造とキャリアパス分析を踏まえた戦略的な人材のターゲットニング提案を期待
- 日本センターとの連携の可能性について提案を期待

中央アジア地域（広域）：ウズベキスタン国

1. 受入人数：全体18名（修士18名程度/期）

JDS援助重点分野 (サブプログラム)	開発課題 (コンポーネント)
1.自由で開かれた国際秩序の構築	1-1 国際公共政策
	1-2 法の支配／法秩序構築
2.持続的な経済成長のための政策立案	2-1 産業開発／多角化
	2-2 公共経営

2. ウズベキスタン国独自の留意事項

- 現地調査：1回、11月下旬から12月中旬を予定
- 事業開始初年度から継続実施している最古参案件である
- 事業成果を分析、その結果を踏まえた新フェーズに向けた提案を期待
- ウズベキスタンの政策決定構造とキャリアパス分析を踏まえた戦略的な人材のターゲティング提案を期待
- 日本センターとの連携の可能性について提案を期待

中央アジア地域（広域）：タジキスタン国

1. 受入人数：全体15名（修士15名程度/期）

JDS援助重点分野 （サブプログラム）	開発課題 （コンポーネント）
1.自由で開かれた国際秩序の維持・強化	1.国際関係
2.持続可能な経済発展のための制度づくり	2.経済開発
3.持続可能な開発のための公共政策及び科学技術・イノベーション政策の強化	3.公共政策

2. タジキスタン国独自の留意事項

- 現地調査：1回、12月第2週～1月上中旬を予定
- 事業成果を分析、その結果を踏まえた新フェーズに向けた提案を期待
- タジキスタンの政策決定構造とキャリアパス分析を踏まえた戦略的な人材のターゲットニング提案を期待
- 帰国後のフォローアップ等について地域単位での実施可能性について提案を期待

質疑応答

ご清聴ありがとうございました。